

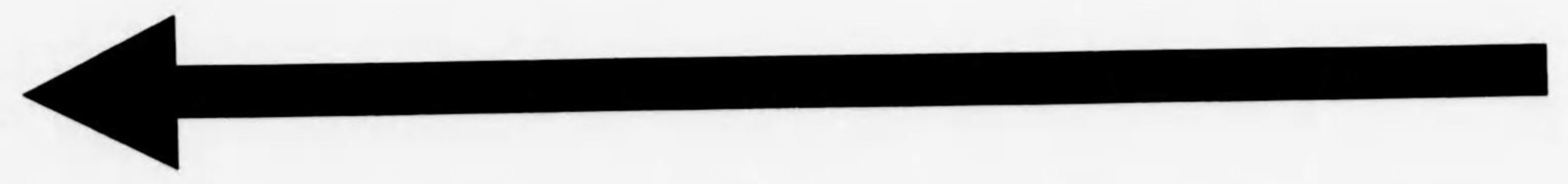
656.5-Te247
1200500749913
55
24

大東亞建設と木林林治水

社團法人帝國治山治水協會編



始



9
1

昭和十七年三月

大東亞建設と森林治水

東京市赤坂區溜池町一番地 三會堂

社団法人 帝國治山治水協會

電話赤坂(48)一四八六番

656.5
T_E24



目次

一、はしがき	一
二、災害の状況	三
三、森林の治水並水源涵養及災害防止機能	七
四、森林治水並災害防止に對する施設方策	一〇
五、結 び	一六



一 はしがき

大東亞戰爭勃發以來萬里の波濤を物ともせず、地障、瘴癘を冒して軍旗の征くところ撃破せざるは
なく、軍艦旗の進むところ制覇せざるはなく。今や舊秩序没落の吊鐘は全東亞に訝まし緒戦此方、果
敢なる作戦の進展と共に、新東亞永遠の礎石を創設しつゝある此時局下に於て森林治水の完璧を期し
水源を涵養し水害其他幾多の災害から我が國土を防衛し以て人命財産の保全と、生産の維持擴充と、
交通の安全と發電水力、工業用源水、水道水源の保持とを圖り以て高度國防國家體制を確立するは我
等銃後國民の責務であり、前戦の勇士の勞苦に報ゆるの途である。

凡そ森林の効用使命は其の生産される木材、それが單に建築、土木、其他各方面に亘つて重要な
資材として利用され、更に燃料として多量に使用されて居るばかりでなく、輓近化學工業の目覺し
き發達に伴ひ、ステイプルファイバー、人絹、セロファン、紙等の原料パルプ資材として莫大なる數
量の木材が消費せられ、更にガソリンの代用としての薪炭ガスが盛に利用せられ、しかも日と共に益

々其の重要性を加へつゝあるが然し森林の効用使命は實に此の生産方面にのみ盡きるものではない。
即ち森林の存在は水源を涵養し河水を調節し、山地の崩壊、土砂の流失を防ぎ、水害、潮害を防備し、
積雪、墜石等の危険を防止し又飛砂を安定し以て耕宅地の維持と魚族の誘致蕃殖に資し、船舶航行の

目標となり、更に社寺及名所舊蹟の風致を増し、國土を防衛し、山水を修飾して國土を美化し、健全なる思想を誘發し、氣候を和げ空氣を清淨にして保健衛生に資する等、種々の無形的の偉大なる効用を有して居るのであるが、其の方面の効用が無形的であるため其の恩恵に狎されて兎角一般の世人の認識が足りない、恰かも太陽とか、空氣とか水とかの存在が人類生存上絶対不可缺のものであるにも拘らず其の不盡の恩愛に狎れて、其の貴き有難さを兎角忘れ勝て居ると同様であるとも見ることが出来るやう。我々は安穩な生活を營んで居るうちは太陽とか水とか空氣とかの有難さを考へることなく過して居るが、降り續く霖雨に幾日振りかの陽光を仰いで歡喜し、早魃に遭遇しては如何に水を求め雨を待ち侘びることであらうか、中國、四國及九州一帶十餘縣下を襲ふた稀有の大早魃は幾多の悲惨な事實を以つて我々に強く訓えてゐる。

森林の存在が治水其の他國土保安並防衛上、産業保護上將又國民保健其他思想善導上に寄與貢獻する幾多の効用就中水源を涵養し、山崩れ其の他土砂の崩壞、流失を防止し、水害を防備軽減するところの治水並災害防止上の効用機能に至つては、恰かも年中行事の如く激甚なる水害其の他各種の災害が襲來する我が國にとつては極めて重大なる關係を有し殊に近時森林の過伐と山地開墾の擴大とは雨水の遲滯作用を減退し益々低水流量を減少し水道水量、發電水力、工業用水の減退による國防、國家産業に甚大なる影響を及しつゝあるに拘らず一般世人の之に對する關心薄く、其の理解認識甚だ淺き

觀あるは、現下の我が國情に照し誠に遺憾の極みであると言はなければならぬ。

幾多の先覺が夙に洪水の警鐘を打ち鳴らして『治水は治山に在り』『水を治むるには先づ山を治めよ』と我々に訓え戒めて居る。此の森林の治水上の効用に就いて廣く國民一般の理解を深め、其の協力に依つて水源地帯の整備を圖り以つて災害のない祖國日本を打建て、紀元二千六百二年の光輝ある歴史に錦上更に華を添へ無窮の繁榮を圖らなければならない。

二、災害の狀況

我が國は遺憾ながら世界稀なる災害國である。即ち我が國土は南北に細長く帶狀に横はり、地勢急峻地盤脆弱の箇所亦尠からず、加ふるに八、九月の候南洋方面より強烈なる颱風の襲來するコースに當り、此の颱風に隨伴する暴風雨は年々歳々幾多の慘害、災厄を我が國土の到る處に及ぼしてゐる。災害は獨り此の水害のみではない。此の外に地震あり、地亡あり、津浪あり、更に早魃あり、冷害あり、類雪がある、實に我が日本は災害の國である。

さりながら之等種々の災害なるものは、到底不可避のものであらうか。暴風雨そのもの、襲來を無くすることは現在の科學を以つてしては不可能とされてゐる。然しながら之に因つて惹起される幾多の慘害は未然に之を防止し、或は其の軽減を圖ることは不可能ではない。只未だ充分に其の爲すべき

933
107

を爲さず、其の盡すべきを盡さざるが故の災害なのである。

元來暴風雨の齎らす災害は、暴風雨其のもの即ち強風なり豪雨なりそのそれ自體のみに因つては、それ程の惨害が発生するものでなく、其の暴風なり強雨なりに因つて他の色々の現象、即ち山崩れとか山津浪とかを惹起し、それが土石流を伴つて下流に押し出しては水量を倍加すると共に堤防を破壊して遂に大洪水となり、貴き幾多の人命財産を失ひ耕地は埋没流失して收穫の途を斷ち、道路、鐵道は流失して交通杜絶するは實に恐ろしくも亦悲惨な幾多の情景を現出するに至るのである。

然らば何故に此の恐るべき慘禍の根源たる山崩れが起り、山津波が発生するのであらうか。之には色々の原因があるのであるが、大別して自然的原因と人爲的原因の二つとすることが出来る。

自然的原因と云ふのは、之にも色々あるが、地勢急峻、地盤脆弱等のために崩壊し易く出來て居るもの、霖雨に續く豪雨、或は融雪類雪等に因つて地盤が過度の水濕を含んで弛緩し、遂に崩壊流失するもの、地中水分の凍結融解、岩石の風化作用等によるもの、或は地震、火山爆發、暴風等の衝擊振動に因るもの等が其の主なるものとされて居る。

人爲的原因と云ふのは、森林の濫伐、過伐、早伐等に因り地盤の露出脆弱化を促進して、一度暴風雨の襲撃を受くるや忽ちにして山林の崩壊を招來し、或は採石、鑛業等に因る地盤の掘鑿破壊等に加ふるに、人口の増加は必然的に住宅耕地の擴張を餘儀なからしめ、田や畑が年と共に山に登り、又一

方都市の膨脹に連れ其の近郊附近に於ては住宅が丘から山へと登りつゝある。道路が網の目の如く開鑿され、鐵道が圓やかな山肌を切り開いて西へ東へと建設されて行く等々、直接間接に地盤の安定を害し其の結合力を弱め遂に崩壊流失の因を成すもの等を云ふのである。

而して文化の發達、國力の伸張は右の如き色々の施設工作が一層激しくなり、災害は益々其の劇甚さを加へるのみである。昭和十三年全國各地に亘つて頻發した水害、就中神戸市の惨害はあまりにも悲惨なる幾多の事實を以つて此の間の消息を明白に訓へてゐる。

要は之等諸般の事業乃至施設工作が、災害の國日本の實情に即して入念に、周到なる用意の下に行はれなければならないことを教へてゐるものである。

躍進日本の國力伸張に伴ひ耕地や宅地が丘を越へ山に登る等土地利用の轉換が行はれることは、限られた國土に於ては已むを得ない自然の成り行である。併し乍ら凡そ物事には自ら限度がある。登るべからざる所まで耕地宅地が登つて行き、伐るべからざる時に伐り、露出すべからざる程度にまで山肌を露はにし、充分に施さるべき補強工作其他の施設を怠る等、之等の事柄のため元々地勢急峻、地盤軟弱の箇所多く、しかも多雨多雪の我が國に於ては、一朝豪雨沛然として至れば忽ちにして地面は洗はれ土砂は流され、岩は轉び樹木は倒れ、遂に恐るべき山津浪を惹起し、やがて之が一氣に進つて土石流となり、山紫水明の平和境も見る／＼中に濁流と化し其の暴威を逞しうして谷間の山脚、耕

地、部落を蹂躪し、堤防を突破して遂に下流平野を一面の泥海の底に沈め、巨額の國富を水泡に歸せしめ、幾多貴き人命を強奪して一家流散の悲惨事を招來し、昨日まで平和であつた村里も都市も一夜にして阿鼻の地獄と化し、其の慘憺たる情景は到底筆舌に盡すべくもない。

最近八ヶ年間の出來事を顧みるに、昭和九年九月高知縣室戸岬に上陸した稀有の強力なる颶風は京阪神を襲ふて彼の關西風水害を惹起して莫大なる損害を與へ、其の惨害の痛手未だ癒えざるに翌十年秋には再度に亘る京阪の水害あり、更に此の年には南は四國九州より北は青森、秋田に及び就中利根川を中心とする關東大水害ありて將に帝都を累卵の危きに瀕せしめ、十一年に於ても南九州をはじめ山陰、奥羽等の各地方を襲はれ、十二年には關東及日本海沿岸諸縣其の他の地方に相當の雪害あり、而して十三年は六月上旬より九月下旬に至る四ヶ月間數度に亘りて實に三十有餘縣下を襲ふた大水害就中神戸附近の大惨害あり、昭和十六年六月及七月の大水害は一道二府三十六縣に及び其慘狀名稱すべからざるものあり此等の慘禍は我々國民に何物を見せ何事を聞かせたであらうか。あまりにも生々しく亦悲惨なる事實として今尙我々の惱裡にはつきりと印されてゐるのである。

我が國は今や眞に國を擧げて大東亞新秩序建設のため有史以來空前の大事業を敢行して居る。銃後一億の國民亦舉國一致孜孜として各々其の業務を勵み、未曾有の難局に處して懸命の努力を續けて居る。實に涙ぐましくも亦頼母しき限りである。斯くてこそ前線の將士も後顧の憂なきを得るのである。

然るに斯る時局下の我が日本に於て、年々歳々巨額の國富を洪水に流し去り、多くの貴き人命を災害の犠牲に供してゐる。果してそれでいゝのだらうか。忠勇なる前線の我が同胞が身命を賭して戦ひに勝ち、いざ祖國へ輝かしき凱旋をしたときに、己が故郷の山河は荒れ、家は流され、耕地は埋り、或は其の肉身の中には災害の犠牲となつて既に此の世の人に在らずと云ふが如きことありとせば、果して其の勇士の胸中は如何であらうか、我々銃後の國民は何の面目あつて之等の勇士を迎へ得るであらうか、然らば如何にして之等の惨害を防止し其の損害を軽減し得るであらうか、此の間に對する解答は極めて簡單であり明白である、即ち先第一に其の眞底を極め源を治めなければならぬ。即ち幾多の先覺が我々を訓え戒め來つた千古の名言「水を治めんと欲すれば先づ山を治めよ」の一言に盡さる。

三、森林の治水並水源涵養及災害防止機能

水を治め洪水の災厄から免れるためには下流の防備施設と共に何故に山を治め森林の整備を圖ることが必要であるか。森林の治水並災害防止機能については古今東西色々の試験研究が爲され、又幾多の事實が之を明白に示してゐるが、此の關係を簡明に摘記すれば大要次の如くである。

即ち河川の上流に於ける山地の森林がよく整つて居ればそれらの森林は次の如き種々の機能を發揮し、偉大なる効用を現はすものである。

- (一) 樹木の葉や枝に依つて先づ豪雨を遮ぎり、雨水が直接地面に叩きつけることを防ぐため、能く地盤を保護することが出来る。
- (二) 森林には樹木のみならず其の地面に存する落葉、灌木、蘚苔等に依つて、地面を流下する雨水を細流に分岐せしめ、其の流速を鈍らせ水蝕作用を弱めると同時に、川下へ出水する時間を著しく遅らせる。
- (三) 樹木の枝葉から幹を傳ふて流下する雨水や、海綿の如き作用を有する落葉蘚苔其の他の地被物に保留された雨水は、漸次多量に地中に浸み込むものであるが、殊に樹根が地中に浸入し蔓延して居るから、雨水が滲透するには一層好都合であり、之が水源涵養の効果を奏し併せて河川の出水量を減ずるの作用を爲す。
- (四) 多數の樹木が密生する爲めに大小の樹根は恰かも網の様に土壤を緊縛するから能く土砂の崩壊流失するを防止することが出来る。
- (五) 森林の樹木自體の重量に依つて土地の表面を鎮壓するから、之がためにも地面の崩壊を防ぐことが出来る。
- (六) 森林は積雪を防止するから特に融雪時季に於ける積雪の發生に伴ふ山地の崩壊滑落を防止し得る。……等々。

森林が雨水を留保し、流水を緩和調節し、土砂の崩壊流失を防止軽減し、又河岸の森林が暴流のため山脚、堤防其の他の浸蝕崩落するを防ぎ、又其の流速を抑制すること等に依つて水害を防備するの機能効用を有すること等は右に掲記したる諸事項に依り一應明らかになつたことと思ふ。而して山地の森林が整備して能く其の機能を發揮すれば、山は治まつて水治まり、水源は涵養されて河川には常に清澄なる水を湛へ、斯くて灌漑用水に事缺かず水田米作を根幹とする我が國の農業が支障なく營まれて、農村は繁榮し、有史以來空前の大戦争も食糧に聊かの不安もなく遂行せられ、發電水力が豊富に供給され工場用水亦充分にして我が國の工業は飛躍的發展を續け、上水道完備して市民の生活を安泰にし、舟筏の便は山國たる日本の運輸交通に資し、魚族は殖えて漁獲高を増す。又延いては河川の流送する土砂の沈積に悩む河口の港灣を復活蘇生させて其の繁榮を圖り、更には海濱に於ける飛砂の害をも免れ得しむるに至るのである。斯くして國家は繁榮し、産業は振ひ、文化は躍進を重ね得るのである。尙茲に水源涵養の重大性を二三の例を採つて見ると我國の水田の面積は三百三十萬町歩であるが之れに對し、灌漑用水を潤澤にすることに因て一町歩五拾圓の増穫あるものとすれば、其額は實に一億六千萬圓に達するのである。又發電水力の關係から見ると我國の理論水力は渇水時に於て五百二十萬「キロワット」で平水に於て壹千九百萬「キロワット」である。今此水力に依る電力を火力に依るものとすれば理論水力に對する發電力は能率を八十五%とし又一「キロワット」の電力發生に要する石

炭を〇、八疋とすれば理論水力五百二十「キロワット」に對しては四千六百六十萬噸の石炭を要し、石炭一噸の價格を二十五圓とすれば十億四百萬圓に達するのである。又上水道に付て見れば二百九十市町村及六十組合の人口二千五百萬が水道の源水を河川に求めて居るのであるが、輓近都市の膨脹により水道の使用量は激増して居る實情を顧るとき如何に水源地帯の整備が必要であるかを痛感せらるゝのである。

「山高きが故に貴からず木あるを以つて貴しとす」とは實に此のことを云ふのである。實に森林は文化の源であり産業の母である。

斯の如く偉大なる効用機能を有する森林が、我が國に於ては果して如何なる状態に置かれて居り、其の機能を發揮せしむるために如何なる施設が爲されて居るであらうか。

四、森林治水並災害防止に對する施設方策

我が國は世界有数の森林國にして、林野總面積に四千五百五十餘萬町歩に及び全國土の六十七%に相當し、之を本州、四國、九州府縣のみに就て見ると林野面積一千七百十餘萬町歩にして全地積の五十八%に當つてゐる。

而して之等の森林は御料林、國有林、公有林、社寺有林、私有林等に分れて居り、夫々の目的、使

命の下に管理經營されて居るが、其の總べてが立派なる森林を成して居るか云ふに、遺憾ながらさうではない。即ち各種の災害に因つて荒廢して居るもの、或は濫伐、過伐、早伐等のため地力衰へ林相惡化して居るもの、或は老齡過熟のため餘命幾何もなきが如きもの等々色々の様相を呈して居り、斯る状態に在ればこそ森林の有する偉大なる治水並災害防止機能が充分に發揮されずして年々歳々各地に大水害を惹起し、或は早魃の襲來に悩むのである。

之等の森林を總べて健全なる状態に保つことこそ一面に於て森林資源の培養となつて其の生産力を高め、又一面に於て森林の有する治水其の他國土保安上、國土防衛上、産業保護上將又國民保健上の曩に述べたる如き種々の効用を充分に發揮せしむる上に於て緊急不可缺の必要事である。

即ち崩壞地、禿瘠地等の荒廢林地に對しては各種の復舊工事、砂防植栽等を施行し、軟弱なる地盤に對する補強工事或は地之防止工事等を行ひ、無立木地、散生地、粗惡林相地に對しては造林其の他林相改良事業を施行し、最近材價昂騰に連れて愈々激化の傾向を見る民有林の亂伐、早伐の抑制等諸般の治山治水工作を施行し、以つて全森林の健康の保持並に増進を圖るの要洵に緊切なるものがある。

恰かも既に發病し傷害ある者に對しては、手術、安靜、投藥等臨床手段を講じて徹底的に之を治療すると同時に、事前に於ける豫防注射も必要であり、又あらゆる保健衛生施設、體育施設を整備充實して國民體位の向上を圖ることが時局下の我が國に於ける人的資源培養上不可缺の方策であると同理

に基くものである。

我が國に於て治水事業として河水の統制、河川の改修、堤防の築設等の諸工事が相當巨額の經費を投じて施行されて來た。併し如何にマチノ要塞や、ジークフリート線の如き頑丈な堤防が築造されても、其の源たる山を治め、其の根本たる森林を整備するに非ざれば、充分なる効果を發揚し得るものではない。恰も投手一人が秀れて居つても、其のバックの守備が缺如してゐては到底勝利チームたり得ないのと同じこと、云へやう。

即ち山地の森林がよく繁茂しよく整備して居つて、水源涵養、土砂扞止等其の治水其他災害防止的機能を充分に發揮して呉れるのでなければ、一度豪雨、融雪、其の他の原因に依つて、山地の土砂が崩壊流失し、或は山津浪を惹起して土石流を起し、漸次之を反覆しつゝ、どんく下流に多量の土砂石礫が河川の全線に亘つて沈下堆積し、河床を高め折角多額の經費を投じたる大堤防も其の効力を削減せられ、濁流は猛威を振つて堤防を破壊突破して遂に滿目荒涼として一木の目に映するものなきに至るのである。

去る昭和十年秋の關東大水害の際、三十餘年の歳月と六千數百萬圓の巨費を投じて改修工事を施した利根川の栗橋附近に於ける洪水量はあれ程の萬里の長城にも比すべき大堤防もあと一尺三寸位で濁流が溢れるところであつたと云ふ。其の時の水位は淺草の五重の塔の尖端と同高であつたと云ふから

若しあの堤防が溢水し更に缺潰したなら濁流は物凄い勢を以つて帝都を襲ひ忽ちにして其の大半を泥海の底に沈めて了つたことであらう、又之に因つて如何なる悲惨事が惹起されたことであつたらうか考へてみたゞけでも洵に戦慄を禁じ得ないのである。

利根川改修工事の堤防の設計は明治四十三年の最高水位を基準とし、更に約七尺の安全率を加算して築き上げたものであるとの事だが、昭和十年秋の出水は四十三年のそれに比し最高水位遙かに高く栗橋附近に於て實に四尺五寸を超へたるも降水量に於て十年の方が遙かに少かつたと云ふのである。この降水量が少いに拘らず増水位が却つて高かいは果して何を意味するのであらうか。それは改修後出水の都度山地の崩壊等に因り流送された土砂が、河底一面に沈下堆積して河床を高めたために堤防はそれだけ低まつたことゝなつたのと、改修の結果河筋の屈曲が除かれ直線になつたため、出水時間が著しく早くなつたのであると云はれてゐる。巨費を投じ長年月を要し、大堤防が出来上つても、決して安閑としては居られないのである。

又昭和十六年六月七月の大水害中土浦方面の慘狀に見ても同様のことが感ぜらるゝのである。

右の如き事實は獨り利根川の場合のみに限らないのであつて、年々土砂の沈積に因つて漸次河床が高まり、所謂「天井川」となり、甚しきは道路や鐵道がトンネルを穿つて河の下を横切つてゐると云ふものさへもある。

即ち治水の完璧を期するためには單に貯水池を造り、河川を改修し、堤防を築造したゞけでは充分でなく、どうしても其の根源たる山を治めて水源を涵養し、山崩を防止して土砂の流失を抑止して土砂の沈下堆積を防止しなければならぬことを、我々に訓えて居るに外ならぬのである。

而してこのことは既に諸般の治山工作即ち森林治水事業を施行したる箇所には孰れも能く其の効果を擧げてゐることに依つても明らかである。

明治四十三年全國的廣範圍に亘る大洪水に遭遇するや、時の政府は臨時治水調査會を設けて之が對策を考究し、翌四十四年度より治水事業に着手したのであつた。爾來星霜を経ること三十有餘、其の間幾多の變遷あつて昭和十年一段落を告げたのであるが、其の間に投じられた總經費は河川關係の治水費二億九千餘萬圓なるに對し、森林治水費は僅か二千四百萬圓にして前者の一割にも足らざる貧弱なるものである。

而してもとより僅か二千數百萬圓の經費を投じたればとて我が國の荒廢林地の復舊工事が完成し森林がすべて健全な状態に復し、其の治水其他災害防止機能を充分に發揮し得べくもないので引續き政府は昭和十二年度以降十二ヶ年間、總經費七千七百五十萬圓の計畫を以つて之が實施の運びとなつたが、これとても我國荒廢林地拾五萬町歩に對し七萬町歩の復舊計畫であつて尙八萬町歩は計畫より除外されて居る現状である。又昭和十二年度以降五ヶ年間繼續、總經費五百萬圓を以つて地之防止工事、

積雪防止、防風、防潮、飛砂防止等災害防止林業施設を實施中であるが頗る小規模であつて試験的施設の範圍を脱しない爲に本年の第七十九帝國議會に於て昭和十七年度より五ヶ年間繼續事業として貳千萬圓の經費を支出して之れが事業の擴充を圖ることとなつたのであるが勿論是れとても將來徹底的災害防止事業の計畫の樹立を要するのである。以上の外に尙民有林の造林事業に對しては、民有林其の他造林促進費を設け、或は昭和十六年度よりは大造林計畫の樹立により造林の助成促進等を圖り、或は森林法を改正して森林組合の設立により合理的施業方法の確立を圖り森林の整備、國土の綠化と資源培養に資してゐる。

然れども之等のために國庫から支出される經費は、之を殆ど毎年の様に惹起される災害の損害額年平均二億九千萬圓に對比すれば實に九牛の一毛にも及ばず、又之に依つて治められ整備される林地は未だ其の一部に過ぎない、到底右の諸施設のみにてはまだ、不充分である。

尙我が國には治水其の他國土の保全、公益の維持増進のために保安林制度なるものがあつて森林の具有する各種の保安的機能の發揮に努めて居るが、之は眞に必要不可欠の部分のみを法律に依つて自由な施業を制限し、必要な施設を爲さしむるものであつて、全森林面積の僅か八%に過ぎず、謂はゞ國民皆兵制度下の我が國に於ける現役兵のみに依つて完きものに非ず、舉國一致難局に處するが如く、治水治山も亦保安林のみに依つて全きものではなく、全國の森林總動員態勢を以つて國土を防衛

せしむるの要あることは多言を要せずして明白である。さればこそ河水の統制、河川の改修、堤防の強化等の治水工事ももとより緊要なることは謂ふ迄もないが、上來縷述の如く其の根源たる治山即ち森林治水事業を完成せずして治水利水の完璧を期するが如きは百年河清を俟つごときものであらう。

五、結 び

以上數段に亘り我が國土の地理的環境に照して各種災害の由つて來るところを縷述し、以つて治山治水の一刻たりとも忽にすべからざる所以を明かにした。

然るに治水と云へば從來兎角河水の統制、河川の改修、堤防の築造のみが水を治めることであるかの如き觀念を抱き、眞の治水の要諦が奈邊に存するかに就きては國民一般の認識が甚だ乏しく治水の根源たる治山即ち森林治水に對しては未だ充分なる理解を持つてゐない様に思はれる。

近年相踵ぐ災害の頻發により、漸く一部の心ある人々の關心を呼び醒まし、去る第七十回帝國議會に於ける『治山治水ノ根本策ニ關スル決議』となつて緊急上程され、全員一致を以つて衆議院の議決を見たことは聊か遅れ馳せの感ありとは云へ洵に喜ばしき次第である。爾來大造林豫算或は災害防止林施設豫算も帝國議會を通過成立するに至つたのである。

然りと雖も一般世人の治山に對する理解認識はまだ充分なりとは云はれ得ないのである。

祖國を護り國土を防衛するは、云ふまでもなく國民最大の責任であり義務である。外敵に對しては世界に其の比類なき皇軍あり、國民皆兵舉國一致の實を擧げて果敢なる作戰により海に陸に赫々たる戦果を擧げ輝く緒戦時代より一面戦争、他方建設の新段階に入らんとして居るのである。然るに年々歳々殆ど定期的に襲來して莫大なる國富と、貴重なる幾多の人命を奪ふ災害に對しては果して國土が遺憾なく防衛されて居ると云ひ得やうか。災害發生後の應急對策だけはあはたしく聲を大にして叫ばれるが、未然に之等の災害を防止し其の損失を軽減するための根本方策たる治山に就きては、未だ決して充分に竭されて居るとは云ひ得ないのである。

しかも水源を涵養し、山崩れを防ぎ土砂の流失を防止して、恐るべき水害の慘禍を防止軽減するところの森林は、到底一朝一夕に其の造成整備を望み得るものではない。其の地盤を安定し、治水並災害防止機能を充分に發揮せしむるには相當の長年月を要するのである。全く文字通り長期建設の大事業である。

然るに我が國は年々歳々幾百の貴き人命と、巨額の國富とを水害其の他の災害のために喪つてゐる。襲ひ來る此數々の災害に對して萬全の策を講ずることは大東亞戦争の完遂を期すると共に寸時たりとも忘れることは出來ぬのである。

凡そ山林を培ふ民族は榮へ然らざるものは亡ぶ。是れ前者は克く百年の大計を重んじ後者は眼前の

私利を追ふに急なるが爲にして山林の治廢は國家の盛衰を表現するものと謂ふべく、宜しく吾人は此の重大時局に際し、一億の國民舉つて輿論を喚起し、一層其の認識理解を深め、焦眉の急務、根本的治水國策『治水即治山』『治山即治水』樹立の實現により舉國一致高度國防國家體制を確立し國土防衛の實を擧げ、以つて興亞の聖業に邁進する大東亞建設下の皇國を泰山の安きに置き、國家の興隆、民族の繁榮を期さなければならぬ。

製本控			
933	國	107	號
			年
			月
			日
大東亞建設と森林治水			
備考			



私利を追ふに急なるが爲にして山林の治廢は國家の盛衰を表現するものと謂ふべく、宜しく吾人は此の重大時局に際し、一億の國民舉つて輿論を喚起し、一層其の認識理解を深め、焦眉の急務、根本的治水國策『治水即治山』『治山即治水』樹立の實現により舉國一致高度國防國家體制を確立し國土防衛の實を擧げ、以つて興亞の聖業に邁進する大東亞建設下の皇國を泰山の安きに置き、國家の興隆、民族の繁榮を期さなければならぬ。

大正 林業 雑誌
101



昭和十七年三月二十五日印刷
昭和十七年三月三十日發行

發行所

東京市赤坂區南青山一丁目五番地
須山 温 圭
編輯人

東京市麹町區平河町一丁目五番地
濱野 印 副 所
印刷所

東京市麹町區平河町一丁目五番地
濱野 英 太 郎
印刷人

東京市赤坂區南青山一丁目五番地
法人 帝國治山治水協會
電話六番(一)四八六番

933
107

終